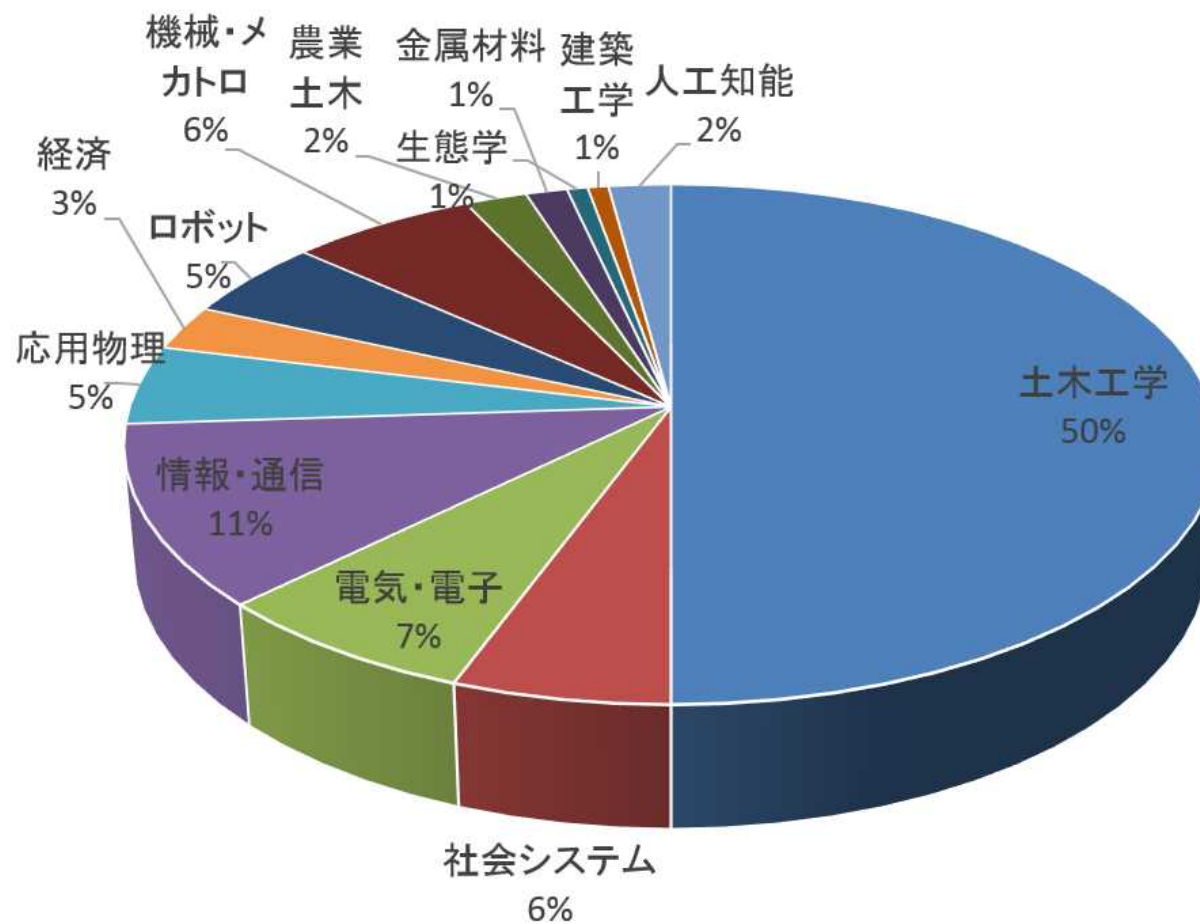


新技術導入の課題と今後に向けた提言

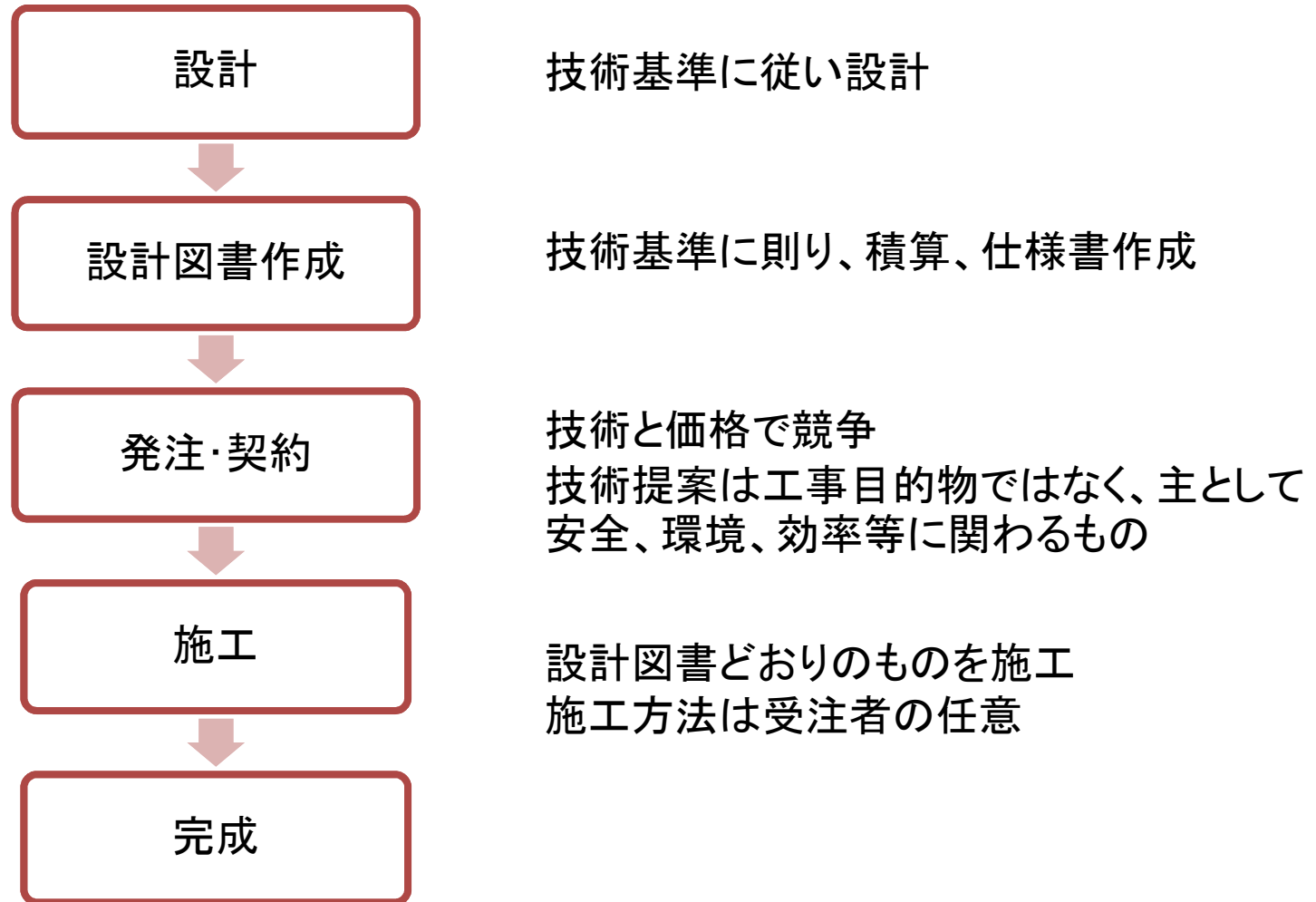
土木学会SIPインフラ連携委員会

委員長 田崎 忠行

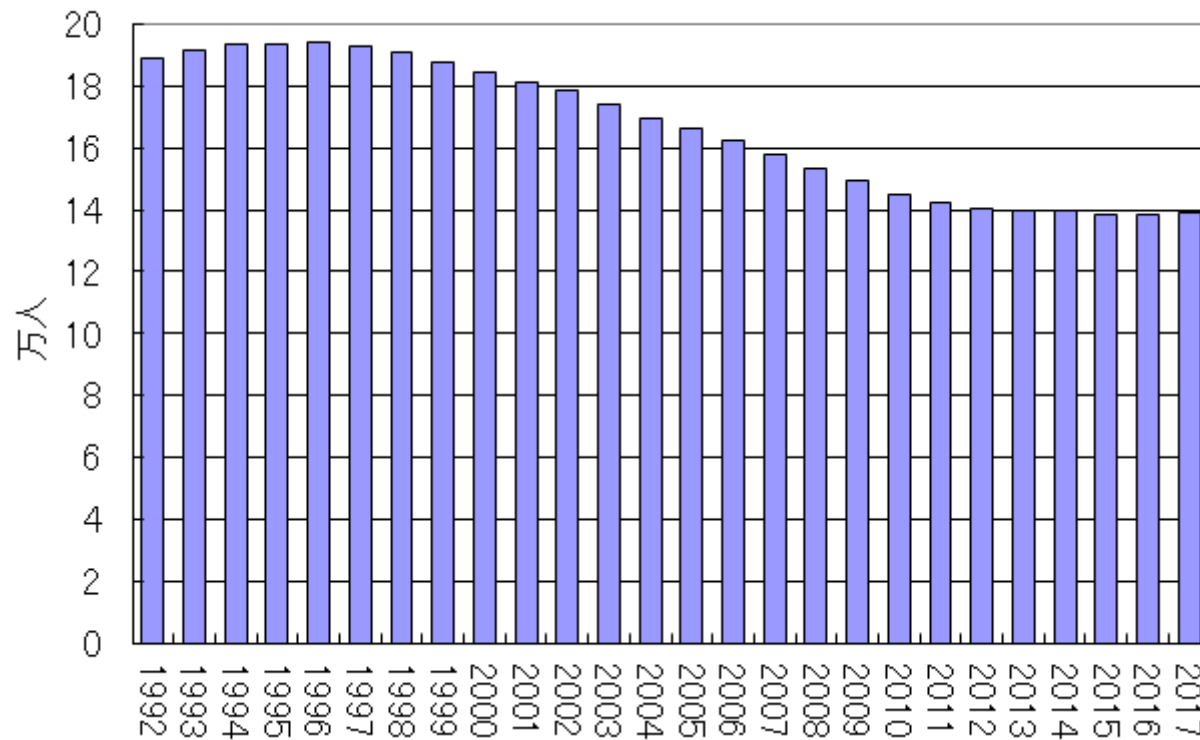
SIPインフラメンテナンス参加者の専門分野



一般的な公共事業執行の流れ



自治体土木関係職員の推移



総務省 平成29年地方公共団体定員管理調査

社会資本の絶対量が
決定的に不足していた
時代

社会資本が一定程度
整備され、その活用・
メンテナンスも重要視
れる時代

大量生産
基準化・標準化
コスト重視
発注者主導の新技术活用

単品生産
創意工夫
性能＋コスト
民間主導の新技术活用

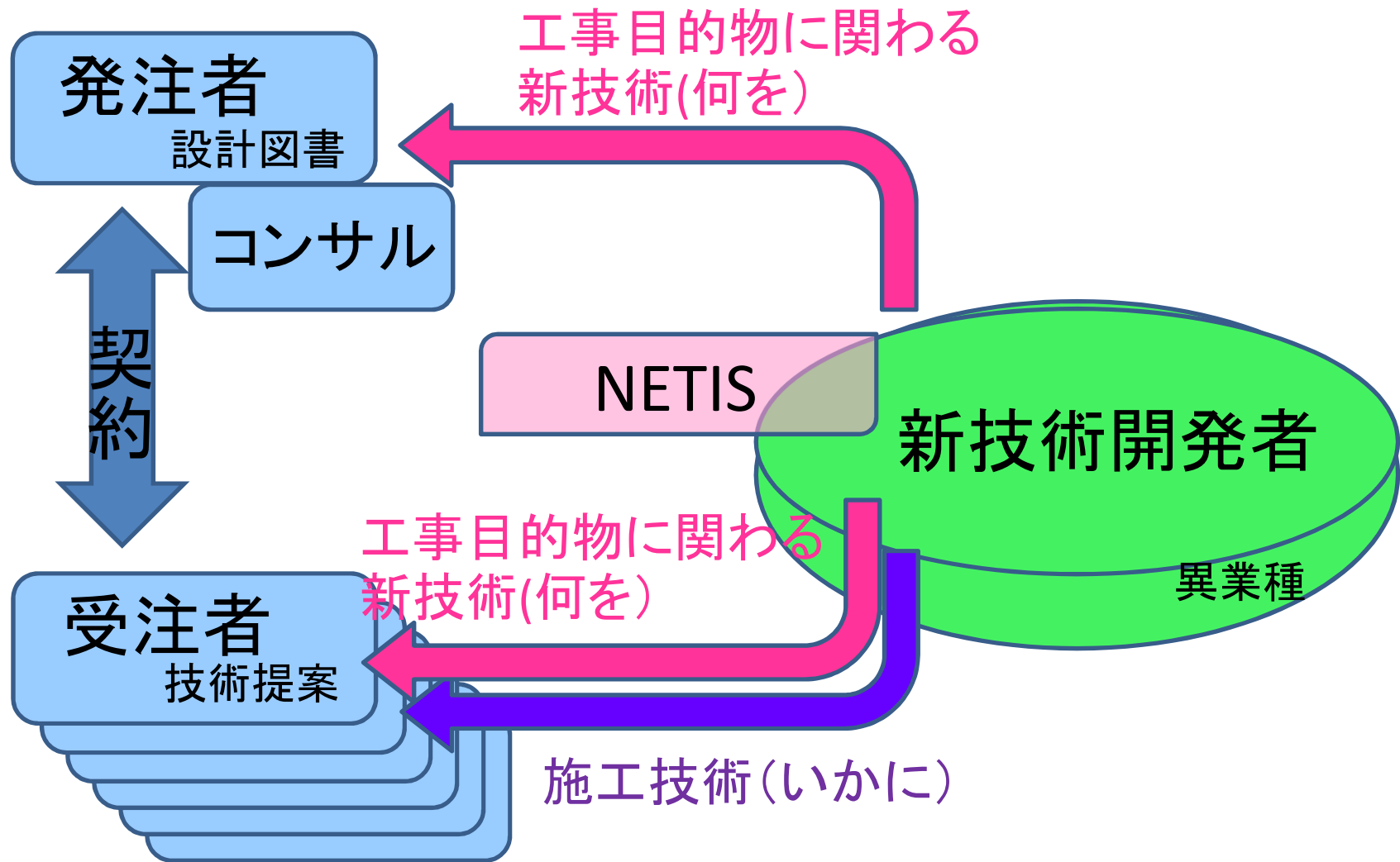


集中

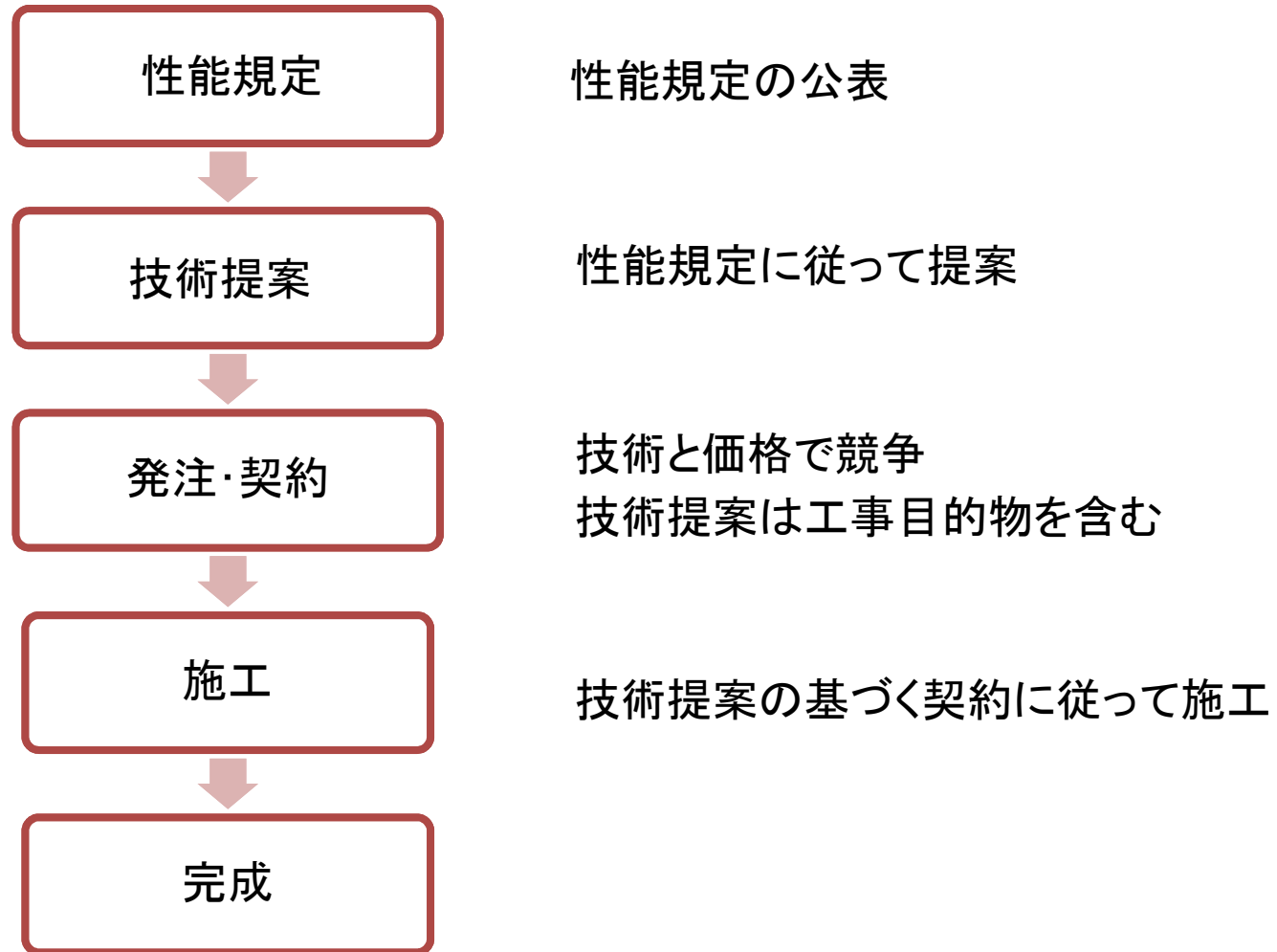
分散



新技術の活用を民間主導に



民間提案を活性化する公共事業執行の流れ



仕様規定と性能規定

	仕様規定	性能規定
発注者	<p>工事目的物の規格、量を規定して発注</p>	<p>工事目的物の性能を規定して発注</p>
受注者	<p>設計図書の規定を遵守 設計図書の範囲内で施工合理化、経費縮減して利益確保 企業による差が出にくい 発注者の能力が問われる</p>	<p>設計図書の性能を満足する材料、工法、工程を計画して実施 計画の良否によって利益も変動 計画について、リスクも負担 提案力を養うための技術開発、投資が必要 企業ごとの特徴が出る可能性がある 認知しやすい性能のみが重視される傾向</p>

発注者は何をやるのか

- 要求性能の提示
- 性能規定の包括的基準整備
- 提案技術の評価
- 採用技術の事後評価

受注者は何をやるのか

- 幅広い分野の技術の情報収集
- 対象プロジェクトへの適用性検討
- (必要であれば)新技術の有効性を証明するのに必要な検討、実験、解析、マニュアル作成
- リスクに対する措置

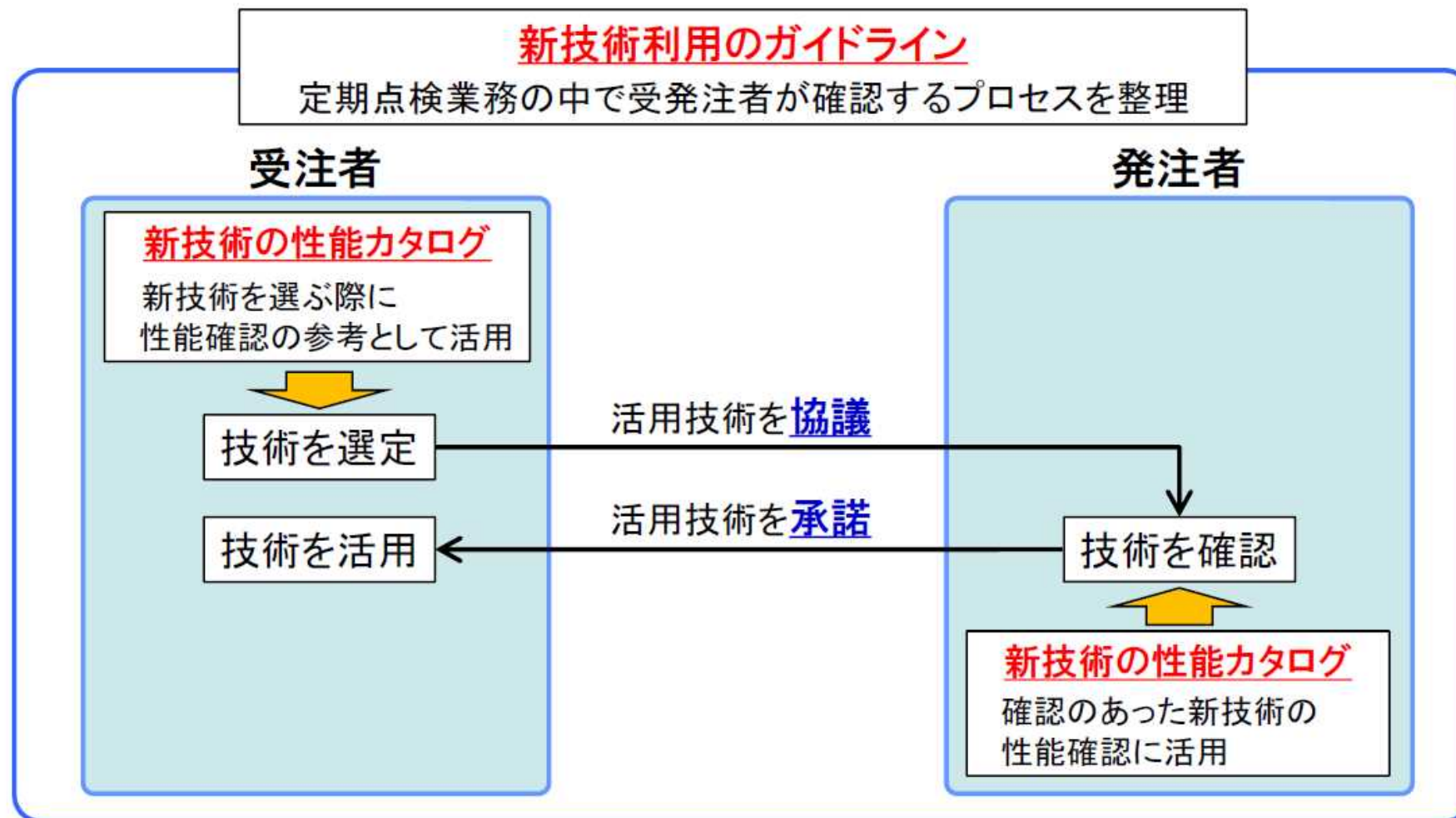
何が変わるのか

- 基準どおり作る、から創意工夫をこらして作る、へ
- 画一的な技術ではなく、より現場条件に応じた技術の活用
- 価格競争から技術競争へ
- より多くの関係者が新技術開発に関与
- 異分野の参画が促進
- 海外展開との戦略の共通化

この仕組みを導入するには;

- 発注者は工事目的物の(仕様ではなく)性能を規定
- 性能規定の包括的基準が必要
- 発注者の技術評価体制
- 受注者(技術提案者)も一定のリスク負担
- 保険制度
- 従来制度との棲み分け

- 定期点検業務の中で、受発注者間で使用する新技術を確認し、業務で活用
- 受注者が業務計画書を作成する際や受発注者間で協議・承諾する際の参考となる「新技術利用のガイドライン」・「新技術の性能カタログ」を作成



発注者と民間企業のスパイラルアップ

